# うきたむ考古通信

# 2023年12月号

#### ■発行者 うきたむ考古の会

事務局 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内

〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117 電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

# ♥展 示

# ●テーマ展

12月9日(土)~3月31日(日)

12月3日に第31回企画展「山形県内の指定文化財ー考古資料ー」が終了し、テーマ展「古墳時代から中世の考古資料」が始まります。展示内容は以下のとおりです。



エントランス

#### 古墳時代の暮らし



高畠町にある古墳時代後期の南原遺跡や寝鹿遺跡から出土した土師器の甕と甑を展示し、住居に備え付けられていたカマドの様子を復元画で紹介し、当時の食生活の様子を紹介しています。

古墳時代前期の山形市の梅野木前1遺跡で発掘された、家と畑と水田からなる村の様子を遺構配置図と復元画で示し、後期の南原遺跡で発掘された竪穴住居や集落を図と写真で示しています。手前には古墳時代後期の土師器の鉢や壺、大甕を展示しています。

古墳時代後期に主として供え物用や食器に使われた須恵器の高坏や坏、土師器の高坏や坏、鉢を展示しています。

#### 各地に広がる須恵器生産



出羽国が設置され、陸奥国から置賜、最上が編入されると、それまでは置賜郡でしか行われていなかった須恵器生産が出羽国内全域に広がっていきます。須恵器生産技術は役所や寺で使われた瓦や陶硯の製作とも共通し、須恵器とともに焼かれています。

高畠町には山形県内で最古の須恵器窯跡があります。高安窯跡から出土した須恵器と 瓦、そして、この時期の須恵器の変遷が明らかとなった当館に隣接する安久津2号墳から 出土した甕を展示しています。須器窯跡の時期毎の分布状況を地図で示し、須恵器生産が 山形県内でどのように展開していったかを説明しています。

8世紀後半の高畠町合津窯跡から出土した各種の須恵器を展示するとともに、7世紀から9世紀の山形県内の須器窯跡の時期毎の分布状況を地図で示し、須恵器生産が山形県内でどのように展開していったかを説明しています。



奈良時代から平安時代の主として食器に使われた 土器の移り変わりと、木製の食器、庶民はそれをど のように使ったかたのかを示しています。

#### 中世の人びとと信仰



中世に入ると武士が台頭し、各地に城館が作られます。ここでは、置賜の城館跡の調査

で出土した陶磁器や木製品、銭を展示しています。また、近世の初めに茶陶の製作にかかる米沢市の戸長里窯跡から見つかった陶器も展示しています。

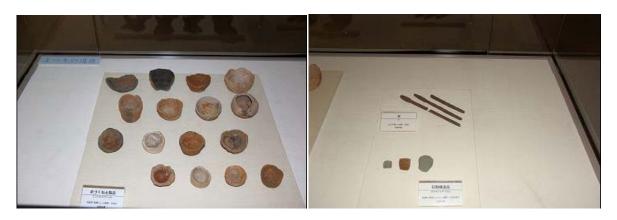
人々と信仰のコーナーでは経塚や板碑、近世に入ってからの一字一石経を展示しています。

#### はたおりの道具



平台ケース1には、古墳時代の糸紡ぎや機織機の部品を展示しています。

#### まつりに使われた道具



平台ケース2には手づくね土器や木製の矢、石製模造品を展示しています。

#### 館事業報告

# ♥秋の遺跡めぐり

秋の遺跡めぐりは10月21日(土)に開催されました。当初予定から1日前倒しした日程

となり山形考古学会とダブってしまいましたが、19名の参加がありました。行き先は宮城県大崎市でした。合併で広範囲となった大崎市には多くの国の指定史跡があり、今回は指定史跡と展示施設を見学してきました。大崎市教育委員会の小野亜矢さんに案内して頂きました。





↑史跡山畑横穴古墳群の現状

↑山畑横穴古墳群資料館



↑資料館で説明を受ける①

↑資料館で説明を受ける②

最初は史跡山畑横穴古墳群。資料館で出土品と遺跡についての説明を受けました。史跡は保護層で覆われているため、現地での見学はできませんでしたが、資料館には第15号横穴の復元模型が展示されており、古墳から出土した7世紀代の土師器や須恵器、鉄鏃、刀子などの遺物が展示されていました。



↑田尻総合支所入口

↑展示室入口(内部は撮影禁止)

次は田尻総合支所で史跡中沢目貝塚や史跡木戸瓦窯跡、新田柵跡の出土品と重要文化財に指定されている恵比寿田遺跡の遮光器土偶のレプリカ、同じく 2017 年に重要文化財に指定され支所内の特別室で展示されている「木造千手観音坐像」を見学しました。

展示室は残念ながら撮影禁止でその様子をお示しすることはできませんでした。



次は特別史跡多賀城跡の創建期の建物に葺かれた瓦や須恵器を生産した史跡木戸瓦窯跡を見学しました。公有化されているのは一部でしたが、説明板や植え込みで表現した 窯跡の展示がありました。





そして縄文時代晩期の低湿地遺跡で多彩な出土品がある「北小松遺跡」について車中からパンフレットを用いた説明を受けました。ほ場整備事業で発掘調査が行われた遺跡で、既に大部な報告書が刊行されています。



午前の最後は新田柵跡。続日本紀にある天平五 柵のひとつである新田柵の擬定地とされる地域で は発掘調査で8世紀前半から9世紀前半までの遺 構が広い範囲で見つかっています。四面廂をもつ 掘立柱建物跡や外郭線になると見られる材木塀や 八脚門、それに、竪穴住居跡や溝跡などがありま す。今回は車中から遺構が発見された調査地など を見学しました。

←新田柵跡説明板



昼食風景①

昼食風景②





昼食風景③

昼食風景④



大きな唐揚げが名物の弁当 食後のコーヒーを楽しむ 昼食会場は田尻徳十郎屋さん。美味しいお弁当と名物のコーヒーを頂きました。



史跡宮沢遺跡にて





史跡宮沢遺跡及び大崎市出土文化財管理センターにて記念撮影 昼食後は史跡「宮沢遺跡」を散策し、隣接地にある大崎市出土文化財管理センターで市 内の出土品を見せていただきました。



大崎市出土文化財管理センターを見学



最後は史跡名生館官衙遺跡の城内地区で説明を受けました。

# ♥第25期考古学セミナー

考古学セミナーは9月24日、10月1日、10月9日の各日曜日に3回にわたって開講されました。講座の全体的なテーマは「山形県の指定文化財と出土遺跡」でした。

- 第1回(9月24日(日)) 受講者は22名でした。
  - ・旧石器時代・縄文時代草創期の指定文化財と関連遺跡

考古資料館館長 渋谷 孝雄

・縄文時代の指定文化財と関連遺跡

(公財)山形県埋蔵文化財センター 小林 圭一 氏第2回(10月1日(日)) 受講者は19名でした。

・弥生時代の指定文化財と関連遺跡

(公財)山形県埋蔵文化財センター 菅原 哲文 氏

・ 古墳時代の指定文化財と関連遺跡

(公財)山形県埋蔵文化財センター 草野 潤平 氏

第3回(10月9日(日)) 受講者は14名でした。

・奈良~平安時代の指定文化財と関連遺跡

(公財)山形県埋蔵文化財センター 植松 暁彦 氏

・鎌倉・室町時代の指定文化財と関連遺跡

(公財)山形県埋蔵文化財センター 高桑 登 氏 ※内容は同封しました館報第62号をご覧ください。

# ♥企画展講演会

企画展講演会は下記の日程、演題で開催されました。

11月12日(日) 参加者は20名でした。

演 題 「山形県の指定文化財ー考古資料ーについて」

(公財)山形県埋蔵文化財センター事務局長

山形県文化財保護審議会委員 高桑 弘美 氏

※内容は同封しました館報62号をご覧ください。

# ♥9月~11月の体験事業について

(1)「勾玉・弓矢・石器をつくろう」

11 月 3 日(金・祝日)に開催しました。参加者は11名でした。



石器をつくろう



勾玉をつくろう



弓矢をつくろう



弓矢の試射

#### (2)「ガラス玉をつくろう」

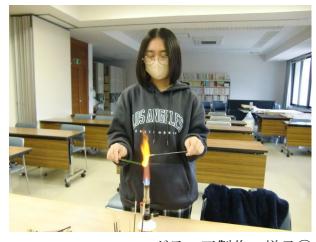
11 月 25 日(土)に開催しました。参加者は6組でした。

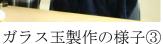


ガラス玉製作の様子①



ガラス玉製作の様子②







完成したガラス玉

#### (3)「大人の自由研究2―サケの塩引きをつくろうー」1回目

11月26日(日)に開催しました。参加者は6組で、東京からの参加もありました。



遊佐町枡川で採補されたオスのサケ



ヌメリ落とし作業



出刃で腹を割く



石匙で腹を割く

遊佐町の枡川サケ採補場で揚がったばかりのサケを仕入れ、高畠に搬入し、午後から6 組の皆さんが塩引き体験しました。手間のかかるヌメリ取りの作業を経て、腹を割きます が、縄文時代の石器である石匙で割いた参加者もいました。腹を割くのには支障がないと のことでした。



腹を割いた後、内臓とエラを取り出します内臓は白子などの可食部分を分けます。



内臓を除去したら新聞紙やペーパータオル で水分を拭き取ります。



水分を除去した後、塩を擦り込みます。



完成です。



6日間寝かせ、7日目の塩抜後、お渡しします。

# 川崎利夫先生追悼文募集のおしらせ

今年3月にお亡くなりになられました、当会名誉会長であり、うきたむ風土記の丘考古資料館名誉館長であられました川崎利夫先生の追悼文を会員より広く募集いたします。

お寄せいただいた追悼文は、今年度3月に発行予定の「うきたむ考古第二十八号」を川崎利夫先生追悼記念号とさせていただき、掲載させていただきます。

皆様のご寄稿を心よりお待ちいたしております。

うきたむ考古の会事務局一同

# うきたむ学講座の予定

令和5年度からうきたむ学講座を再開することとしました。最終的には12月24日(日)の総括実行委員会での決議が必要ですが、運営委員会で決定した開催予定案を記します。

- 1 講座開催期日を令和5年2月4日(日)、と3月3日(日)の2回とします。
- 2 講座1回目のテーマを「南陽市のぶどう栽培」とし、次の2つの講義をお聞きします。
  - ①「南陽市のぶどう栽培の歴史」(講師:佐藤庄一氏)
  - ②「南陽市のぶどう栽培の将来」(講師:結城秀人氏)
- 3 講座2回目のテーマを「最上川舟運と長井」とし、次の2つの講義をお聞きします。
  - ①「絵図と水帳の視点から」(講師:岩崎義信氏)
  - ②「近世置賜の交通(仮題)」(講師:原 淳一郎氏)